



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年1月1日

1月号・第144号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



大安寺 伝馬頭観音（重要文化財）

Contents

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。
URL <http://www.naranature.com>

新年のご挨拶	①	自然教室チームだより	⑨⑩
幻住庵俳句コンクール特選受賞	②	12月歴文研修会	⑪
春日若宮おん祭り永年参勤表彰	②	やさしい昆虫講座③	⑫
Monthly Repo.ならやま	③	青垣春秋	⑬
里山の今	④⑤	俳句百景	⑭
登大路カフェ・フィールドワーク	⑥	癒しの散歩道&ならやま茶論	⑮
近大生奮闘	⑥	Galleryならやま&奈良学クイズ	⑯
12月例会報告&仲間入りしました！	⑦	ならやま景観整備	⑰
新蕎麦祭り	⑧	行事案内	⑱
芋煮会	⑧	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記	⑲

明けましておめでとうございます



会長 藤田秀憲

皆さま お健やかに
新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

「景観整備」「例会」「自然教室」とも会員の皆さま方のご支援のおかげで、ますます活動内容が充実し参加人員も増えてきております。

さて今年は、これまでの当会の活動の拡がりの中「ならやま」が忙しい年になりそうです。昨年はカシノナガキクイムシの飛来が拡がり、約60本のコナラに被害が出ました。

調査の結果、すでに完全に枯れ死した木や侵入を受けたがまだ持ちこたえている木など様々ですが、今年はこれまで以上に被害が拡大することが予測されます。

被害拡大を防止するため、奈良県風致景観課と相談したところ、奈良市景観課との調整をして頂き、枯れ死した木や侵入被害の激しい木については伐採・燻蒸処理を行うことになりました。しかし侵食の極めて少ない木はそのまま経過を見ることにしました。

同時に、奈良県森林技術センターと協働で伐採木の利用方法として、キノコの栽培法のテストも実施いたします。

次に、従来から「ならやま」において、小学生とその保護者を対象にしたイベントを開催してきましたが、このたび奈良県農林部森林整備課のご推奨もあり、「Green Gift プロジェクト」に参加することになりました。

このプロジェクトは「体験を通じての環境意識の向上」と「地域での環境活動の発展」を図

るため、東京海上日動火災保険㈱からの指定寄付を受けた日本NPOセンターが地元環境ボランティア団体と共に、小学生とその保護者を対象に環境体験活動のイベントを実施するものです。

初年度は16府県で実施されますが、奈良県下では当会がお受けすることになりました。

現在、計画しているイベントは、

- ①3月に「やってみよう！シイタケづくり！」
- ②5月に「ならやまウオーキングと自然観察」
- ③7月に「ならやまの昆虫観察会と自然工作
&バウムクーヘンを焼こう！」
- ④8月に「ならやま自然観察会と自然工作
&バウムクーヘンを焼こう！」

ですが、皆さま方から素晴らしいアイデアをいただき、創意工夫を凝らして、多くの方々に「ならやま」にお越しただいて、より楽しく「ならやまの自然」を体験していただきたいと願っています。

例会は好評の昨年に引き続き、ハイキングや自然観察会や歴史探訪などプログラムをより充実させ会員相互の研鑽と親睦を図ってまいります。

また、自然教室は校庭観察会などを通じて子供たちの自然環境教育で実績を上げていますが、今年は会員のための自然観察会にも力をいれ、会員の自然観察力と情報発信力の向上を図りたいと考えています。

今年も盛りだくさんの活動になりますが、「明るく！元気に！楽しく！そして無理をせず！」をモットーに会の運営を進めてまいりたいと思います。

皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。



幻住庵俳句・特選 俳句選者 川井秀夫さん

本誌「俳句百景」の選者・川井秀夫さんが、第77回幻住庵俳句コンクールにおいて、特選の栄に輝かれました。慶賀の至りでございます。

大琵琶のそのまま秋日溜りかな

選者 石川 治子 (日本伝統俳句協会)

【評】一年を通して然程に荒々しい姿も見せぬ湖だが、秋色の濃く深い藍を湛える季の移ろいには見る者に安堵にも似た感情をもたらす。そうした湖の秋の或る日、隈無く日当たってゐる様を”秋日溜り”と言い切った措辞が秀逸。

登山グループの案内文に一句添えられたのが、俳句を始められる切っ掛けであったとのこと。鷹羽狩行氏(現俳人協会会長)との交信指導、故岡井省二氏・故鳥居おさむ氏等の大俳人に薫陶をお受けになり、今日に至っています。

川井さんは、多種多様な活動の合間を縫うようにして、選句に勤まられています。シニアの俳句講座の講師、シニアの子どもエコ俳句の選者として、数万句に及ぶ投句の指導にも精力的に携わっておられます。さらに、現在の俳句活動として、代表を務めておられる「自然俳句会・蒲公英」はもちろんのこと、プロの主宰する「ろんど」と「なみはや句会」にも席を置いておいでになります。

このように素晴らしい経歴と実績をお持ちの川井さんが、会報誌「ネイチャーなら」に【自然俳句】を掲載されたのが、2006年(平成18年)4月号(第51号)であったと思います。今では多くの会員からの投句があり、【俳句百景】として1ページを飾ることができるようになっていきます。その中から、今年の最善句を選んでいただきました。

数え日の風に微笑む石仏	八木順一
切株に腰も嗤ふて春隣	大澤教男
上堂の炎が走る春の舞	鈴木末一
つばくろの先導うれし二輪ゆく	西谷範子
壬申のいくさの色や曼珠沙華	古川祐司

「俳句には詩情が大切。自然にあるものを見たまにポエジをきっちり出せる。」ということなのでしょか・・・。

益々のご活躍を祈念しつつ。(鈴木末一)

春日若宮おん祭大名行列 10年参勤表彰受賞・弓場厚次さん

『おん祭』お渡り式を締めくくる「第12番・大名行列」は、江戸時代以降武家の伝統を守って郡山藩・高取藩などが受け継ぎ奉納。衰退していた「大名行列」は、昭和54年に『春日若宮おん祭』が国の重要無形民俗文化財に指定され、青年有志の手で「大名行列」が復興し、本年度で保存会結成第35回目を迎えます。

弓場さんは、参勤13年目で行列の花形毛槍や郡山藩郡山御槍を担当の大先輩寺田正博さんから『春日若宮おん祭大名行列』参勤の楽しさを教わられました。早速、平成15年の「第868回奉祝若宮御出現1000年春日若宮おん祭」のお目出度い年の第25回大名行列に参加されました。今日までの経歴は、平成15年・郡山藩郡山数槍大名行列に初参加。奴の役で黒足袋。16年・南都奉行南都合羽籠・二人の交替で「お渡り」用・祝い酒籠。黒足袋 17年～20年・郡山藩郡山侍奴から侍に昇格され白足袋を履かれる様になりました。21年～24年・南都奉行南都侍。17年以降、郡山藩・南都奉行の侍役として、本年度も担当されます。



ご受賞に当たり、弓場さんは、「参勤2年目に担当した南都奉行南都合羽籠は、相棒と交替で行う駕籠舁で、本来は大名行列の最後の下回りの者が、行列の供人用雨具を納めた駕籠舁。現在は行列参勤者の寒さ防止用に、休憩時に保温の為に日本酒10本程を駕籠で担って参勤しました。重量もあり大変な仕事でしたが、精進の為に良い経験ができたと考えております。」とおっしゃっています。

「石の上にも3年」と言いますが、10年間もの長い年月、文化財の復興隆盛と継承に尽力されているお姿に慶福の念で一杯であります。

更なるご活躍を祈念して。(鈴木末一)

Monthly Rep. ならやま

◆11月21日(月) 晴れ 55名+10名

不法投棄ゴミが目立つので、BC周辺の一斉清掃を実施した結果、大量のゴミが集まった。

ならやまで活動する会員の安全対策の一環として「防災緊急カード」を配布し、名札ケースに保管してもらい、緊急時の対応に利用出来るようにした。

近畿大学の奥村先生と学生が来られた。

里山Gはカシナガ被害木の伐採、農園Gはダイコン・宇宙イモの収穫とタマネギ畑の施肥。景観Gは百日草の処分とジャーマンアイリス花壇の除草。

◆11月27日(木) 晴れ一時曇り55名+4名

県、市、県技術センターの担当者が、奈良公園のなら枯れ対策の一環として「おとり木」となるコナラを確保するため、伐採木の下見に来られた。

朝1時間、全員で第5地区の果樹植栽予定地の石ころ拾いを実施。



クワ・花ウメ・実ウメの一斉植樹

背の高い皇帝ダリアの花が満開で見頃。立派なナメコが収穫された。

里山Gは引き続きカシナガ被害木の伐採。農園Gはサトイモ・ダイコンの収穫と第5地区から運んできた石で田の畦道を整備。景観Gは水生生物調査とタナゴの避難池の整備、ビオトープ湿地の花壇の整備。

◆12月2日(月) 曇り 5名+4名

タナゴ池の泥あげと池乾しのため近畿大学の学生が来られた。100匹余り見つかったタナゴの半数を近畿大学へ、残りの半数を保護池に放流。

◆12月5日(木) 晴れ 70名+3名

新ソバ祭りをお昼に開催。ソバクラブのメンバーと女性陣のお陰で、ならやまで栽培されたソバと野菜のテンプラが準備され、みなさん「美味しい、美味しい」と好評であった。

里山Gはカシナガ被害木の伐採。農園Gはサトイモ・ジャガイモ・ダイコンの収穫。景観GはBC近辺の竹林整備と第5地区の植樹イベントに向けて堆肥の運送を実施。BCの水路の橋が新たに整備された。

◆12月12日(木) 晴れ 58名+3名

会員に感謝をこめて秋の収穫祭(芋煮会)を開催。お昼には赤米のおにぎり、芋煮、ふるふきダイコンなど、ならやまの特産物を堪能した。

午後、第5地区でクワ・花ウメ・実ウメの一斉植樹を実施。3年後の収穫を期待する。



水生生物調査

里山Gはナラガレ被害木の伐採。農園Gはサトイモ・ダイコンの収穫と野菜畑へのチップ投入。景観Gは池の生物調査、山野草花壇でのシランの植え替え。

◆12月15日(日) 曇り 4名

第5地区の植樹された木の手直し。

◆12月19日(木) 曇り 56名

里山Gはカシナガ被害木の伐採、農園Gはサトイモ・クワイ・ダイコンの収穫。景観は彩りの森の除草、タナゴ池の堀下げ、草花の越冬準備。
(木村 裕)

里山の今

ならやま花だより 山中笙子

12月19日(木) 舞い散るクヌギ、コナラの葉や透きとおったタカノツメ、コシアブラの落ち葉が土を厚く覆い、足下がふかふかして歩くのが楽しいです。

ならやまでは、普段は地味で目立たず日陰に強いヤツデ(ウコギ科)が白いピンポン玉のような花を幾つも付けていて目に留ります。上側の球には両性花、下方の小さい球は雄花。両性花は雄しべ先熟。開花するとまず雄しべが花粉を出し、花の上側から蜜を出して虫を呼ぶ。花びらと雄しべが落ちた後に雌しべが熟するという自家受粉を避ける知恵者で、翌春に実が黒熟します。大きく切れ込んだ掌の形の葉や球形の花が造形的に面白く、西洋では人気があります。タカノツメ、コシアブラも同じウコギ科です。



ヤツデ

【草花】ヒメジョオン、イヌホオズキ、ヒメツルソバ、フユノハナワラビ

【草の実】ツルアリドオシ、

【木の花】ヤツデ、ミツマタ(蕾)、ジンチョウゲ(蕾)

【木の実】フユイチゴ、ソヨゴ、ヒサカキ(実と蕾)、マンリョウ、センリョウ、ヤブコウジ、ナンテン、カマツカ、アオキ、シロミノカラタチバナ、ノイバラ、ヤブムラサキ、ウメモドキ、モチノキ、グミ

ペタキン日記⑳ 羽尻 嵩

12月2日、近大班4名によるタナゴ池の全生物調査が午後1時から始まった。「ならやま」での活動日ではなかったが、見学者も数名来られ、作業を見守られた。調査の結果、ニッポンバラタナゴ107匹、タガイ11個体、シマヒレヨシノボリ3匹の他、ドジョウやミナミヌマエビなどが多数捕獲された。

この数は、期待した数には程遠いもので、タナゴは昨年より半減し、タガイは4個体が死に、ヨシノボリも半数以上が行方不明で、他にもモツゴも見当たりませんでした。

タガイ以外は「タナゴ池」から「ならやま池」に移動したとか、侵入していたカワセミに食べられたとか、ザリガニにやられたとかの可能性もあると思いますが、結果が思わしくなかった最大の原因は、水質の悪化にあると思います。

今後はこれを踏まえて、池の改修や水質改善に役立つクワイ導入に取り組みたいと考え、さっそく12月19日の活動日に池の深みを広げる土の除去作業を8名でやり、掘りたてのクワイの種芋もいただきました。

来年度は、1月半ばに池の改修作業の続きをやりますので、寒い時期ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、近大に持ち帰られたペタキン41匹が全部死んだとの連絡が入ったこともお伝えしておきます。水槽の水の合わせがうまくいってなかったのが原因だと思われます。幸い、「保護池」に第2世代の66匹は入れてありますので、今後も世代を繋げていけると考えています。



ペタキン



ヨシノボリ

真冬の昆虫

菊川年明

1月は冬の真っ最中、野外の視認できる範囲では昆虫は見かけませんが、成虫で越冬している昆虫は意外に多く、私がならやまで目にしたものは微細、雑多なものを除いても30種余を直ぐに挙げられます。

チョウではルリタテハ、テングチョウ、ムラサキシジミなど8種が草木の葉裏、落葉の上、建物の隅などで寒気に耐え、暖かい日には日光浴に飛び出してきたりします。甲虫はたくさんいます。コナラの朽ち木にはコクワガタがいました。アカマツの朽ち木にはオオオサムシなどオサムシ・ゴミムシ類5種、ゴミムシダマシ類2種、コメツキムシ類3種、クチキムシ類2種、その他ウバタマムシなど2種、計14種の甲虫が潜んでいました。オサムシ類は地中にもたくさん潜んでいるはずですが、草むらの根方ではナナホシテントウ、イタドリハムシ、ヨモギハムシ、コガタルリハムシなどが潜んでいます。

このうち、コガタルリハムシは無数の集団でいるところを目撃しています。カメムシはオオツノカメムシなど4種、バッタ類（近縁種を含む）はトノサマバッタ型の大きなツチイナゴ、キリギリスグループのクビキリギリスなど5種がいました。バッタ類に加えた昆虫には真っ黒で大きく、グロテスクなオオゴキブリもいました。

このほか、春に女王蜂になるオオスズメバチもアカマツの朽ち木に潜んでいました。

ガ類はフクラスズメなど数種を見ていますが、そのほかにもたくさんのガが越冬していると思います。みんな春を待ちわびていると思います。

(写真はオオオサムシ)



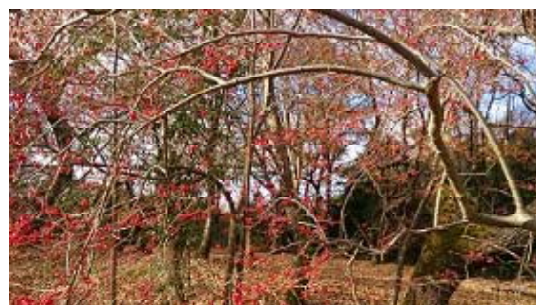
ならやま自然の森 観察路

山本妙子

冬に向かう日の午後、パトロール班の菊川さんと落葉を踏む心地よい音を聴きながら山道を歩きました。当日のならやま自然観察路の4コース（北壁コース）は、お日様に十分に当たった枯葉の布団に包まれているような森の中でした。

- 見晴らしの辻すぐ下のところのコースが判りにくいので、番号を付ける等の対策が必要です。
- 鳥観の丘では木が茂っているが、下が民有地である為伐採出来ないとのこと、以前はここから遥か大極殿も望めたそうです。
- 鳥観の丘の下の階段が新しく2か所出ていました。前日に枯れ木を運び杭には古い竹を使われたとか、とても歩き易くなっていました。しかし、ここから赤岳口までは危険な下りがありまだ対策が必要です。
- 赤岳の土が少し崩れていました。
この時期の植物にも感動しました。

佐保自然の森でモチノキ、ウメモドキ（写真①）、センダンの実が、青空に映えてとても美しかったです。又、赤岳の手前で白い実を発見、シロミノカラタチバナ（写真②）と教えて頂きました。別名を百両（ヒャクリョウ）、お正月を控えおめでたい気分になりました。



▲写真①

▼写真②



ならやまにようこそ
登大路カフェのみなさま

11月17日(日)「登大路カフェ」世話役の今井、守屋さんはじめ大人13名とお子様7名、計20名の方が、ならやまにお見えになりました。

「登大路カフェ」は、奈良県の職員間の交流と視野を広げることが目的に開催している交流型自主勉強会で、ほぼ2ヶ月に1回開催されているそうです。



この勉強会からの要請で、5月15日に阿部顧問が「里地・里山をよみがえらせる活動の歩みとこれから」と題して講演をされました。

これを機会に「実際に森や畑の生き返る様子を見て、私たちの暮らしや身近な自然のことを考えてみませんか」と呼び掛けられてのご来場となりました。

この日は、お父さんたちは第5地区の孟宗竹の間伐作業をされました。午後はならやまに入り、里山の景観維持・管理の重要性と苦労や問題のナラ枯れの話聞きながら歩いて頂きました。また復活した畑や水田、新たに作ったビオも見てもらいました。



一方、子供たちとお母さんはクイズやポイントゲームをしながらの山歩きと遊びの広場で丸太渡りや木登りを楽しんでもらいました。

午後は丸太切りしてプレートを作り、竹切りしてコップや筆立てを作っていました。つづいてのならやま池ではエビ掬いに一生懸命です。思わず池に落ちそうになる場面もありましたが、とても喜んで頂けたと思います。

日頃の激務を忘れ、皆さん楽しく気分転換していただけたでしょうか。

反省：折角のお休みなのに、お父さんたちとお子さんたちを分けてしまったことです。お父さんの格好いい竹伐り作業を見せてあげたかったなあ。

また親子でいらしてください。お待ちしております。(塩本勝也)

近大生奮闘!

近畿大学農学部環境管理学科大学院生杉本さん、四回生の柴田さん・高尾さん・堀田さん、以上4名の学生さんが、12月2日(月)午後1時から約3時間かけて、タナゴ池の水抜きと全生物調査に取り組んでくれました。

まず、専用の水中ポンプで上池、次に下池の順に水を汲み上げた。多数のミナミヌマエビとスジエビが飛びはねる。その後、ペタキンが次々と網で掬い上げられる。大小様々な大きさの泥にまみれたペタキンを優しく手で掴み、清水の入ったバケツに入れていく。約100匹ぐらいを捕獲できた。他にシマヒレヨシノボリやタガイも。いずれも昨年同時期の調査結果より少なかった。その原因については、別稿に委ねるとしたい。



4人の学生さんに、①何歳くらいから、魚に興味関心を持つようになった?。②近畿大学環境管理学科を専攻した動機は?。③将来、研究機関などで研究活動を続けていく?。の三点に絞ってインタビューした。

早い人は幼稚園児の時、遅い人でも中学生になった時から魚は好きで、水槽の中で飼育を始めた。高校生の時に絶滅危惧種の魚に関心が高まり、近畿大学への進学を目指すようになった。4人とも、将来は一般会社に就職しようと考えているが、先輩や同輩の中には、びわこ博物館や京都水族館で学芸員として頑張っている人もいるとのことである。

後片付けの合間を縫ってのインタビューではあったが、自分自身が熱中できる分野に精力的に取り組んでいるだけに、眼が輝き、生き活きとした表情から、次代を担う逞しさを垣間見ることができた。(鈴木末一)

12月例会報告 紅葉の正暦寺を歩く

天気は回復。この天気予報を信じ集合場所の近鉄奈良駅前バス停に集まった人数は16名。晴天の空の下、早速バスに乗り込み森本のバス停に。ここで一日の行程を確認のあと軽くストレッチ体操を済ませていよいよ最初の見学地弘仁寺に向けて出発です。少し暖かいとは言え、やはり12月。周りの野山は冬の装いを一段と深め、緑色もくすんでいます。それでも山の所々には名残の紅葉が初冬の静かな佇まいを一段と落ち着いたものにしてしています。

そして弘仁寺。長い長い石段を上りきった先には、私たちを除いて誰ひとりいない境内。そこには真っ黄に色付いた銀杏の落ち葉が降り積もり、えも言えぬ風情を醸し出しています。色と静寂……。この二つが微妙に混じり合って作り出す弘仁寺の風情。本当に青垣の歴史と風土を楽しむにはこの時期を逃せません。是非このお寺を訪れてみてはいかがでしょうか。

しばしの昼食休憩のあと、二番目の訪問地正暦寺へ。この寺へは、長い長い上り坂が続きます。ここも紅葉の寺として有名ですが、さすが初冬の今は、紅葉の色も褪せ、木々も寒さの中で寒そうに震えています。またシーズンを外れた今は、人影もなく静かに佇み、長い長い冬の準備に入っているようです。上空の厚い雲に覆われた景色の中で聞こえるのは菩提寺仙川のせせらぎの音だけです。

ここでは福寿院を訪れ、孔雀明王等の仏様や狩野永納の襖絵を堪能したり、借景を生かした枯山水の庭を満喫します。また正暦寺は、日本酒清酒の発祥の地とか……。

そして最後の円照寺へ。ここ正暦寺からは険しい山道が待っています。それほどの距離でも標高差でもありませんが、小生にとってはきつい厳しい上り道です。それでも休み休みしながら峠になんとかたどり着き、あとは円照寺までの長い長い下り道です。厳しい上り道もしんどいですが、だらだらとした下り道も違った意味で

しんどいもの。途中の荒れ果てた、また整備された山々に目をやりながら、「全国の山はこんな状態なのかな、こんなに荒れているのかな」と正直感じます。そして、やっと円照寺。時刻は3時を過ぎています。ここではバスの時間までやや時間があるので健脚組は崇道天皇（早良親王のこと）陵へ足をはこびます。それからバスに乗り、近鉄奈良駅で下車。忘年会会場へ向かいます。

晴天から曇り空への天気の移り変わりは、気温の変化も伴いますし、私たちの老躯にも厳しいものです。そして何よりも厳しかったのは8.6キロの距離でした。しかし、その中で静謐と落ち着いた色相の素晴らしさを会員相互の親睦を通して体験できたことは良い思い出になりました。機会があれば是非もう一度歩いてみたいコースの一つになりました。

(八木順一)



**仲間入い
しました！** 入会させていただいて
武内 豊

奈良は古代より現在まで2000年もの間、日本民族の心の故郷として、人に「心の懐かしさ」を感じさせる地として、自然景観の森や田園風景、あるいは神社仏閣のコントラストが存在しています。この自然や景観を大勢の仲間で護って行かれている「奈良・人と自然の会」の活動に大きな感動を覚えました。僅かな力しかありませんが、皆様の活動を共有させていただきたいと思い参加いたしました。皆様よろしく願いいたします。

新蕎麦祭り

ならやまの新蕎麦に舌鼓！

12月5日、ならやまで取れた「新蕎麦」を皆で賞味する「新蕎麦祭り」が開催された。

朝8時半、「そばクラブ」会員20名の中から選ばれた10名と師範の田辺さんが、市内の「中部公民館」「奈良市生涯学習センター」の2カ所に集合、調理室で合計100人分のそばを打つ。

会場となるならやまBCでは、茹で準備と大量の天ぷら作りが進む。11時半過ぎに、打ち立て新蕎麦が会場に到着。待ちかねた参加者64人の前で、予定通り12時、新蕎麦祭りの開会となる。



美味しい蕎麦は、生き物と言われる。蕎麦は一人分づつ茹でて、すぐ皆さんに供さなくてはならない。①火力②鍋の大きさ・厚み③新鮮な茹で湯がポイントで、何より時間が勝負。茹で時間は45秒～50秒、手早く洗って、氷で締めて、「ぶっかけそば」で次々と皆さんに供する。文字通り「採れたて」「打ち立て」「茹でたて」。幸いあちこちから「美味しい」「うまいもんだなー」「最高だね」の声が聞かれた。池田さん特製の「そばがき」も大好評、お持帰り用もパックも含めて完食、完売。そして何より、皆さんにお腹一杯食べていただいたのが良かった。

思えば、8月の炎天下での畑作りと種まき、9月の開花と台風、10月の刈取り、雨との競争の脱穀・乾燥など「そば栽培」は気が抜けない。その苦労も報われた思いの一日であった。色々と協力いただいた皆様有難うございました。

(そば文化クラブ 寺田 孝)

ならやま名物 芋煮会

今年初めて気温が一桁となった12月12日、メンバー58名が集い、ならやま名物「芋煮会」をベースキャンプで開催。温かい日差しが降り注ぎ、絶好の芋煮会日和りとなった。



午前中は、各グループ別の定例活動に取り組みました。その間、女性幹事の皆さんと女性スタッフが、日頃の腕前を存分に発揮すべく、芋煮鍋とふろふき大根、さらに赤米と黒米のおにぎりづくりと手際よく準備をしていただきました。大根、牛蒡、人参、里芋、椎茸など、ならやま産の新鮮そのものの食材を使い、味付けも十分に吟味し、風味豊かな味わいになるように頑張っていました。

主役の里芋は、夏場の灌水作業の成果からか、作柄も良く大粒ぞろいでした。



あちらこちらで「美味しい」「美味しい」の連発。瞬く間に芋煮の大鍋2個も見事に完食、赤米と黒米のおにぎり

にも次から次と手が伸び、中には2個3個と・・・。

来年は、水田の管理や籾摺りなどの作業の都合もあり、黒米だけになります。黒米の色素「アントシアニン」は、視力回復や血流を良くする働き、血管を保護する働きがあって、動脈硬化を予防してくれます。お互いに健康増進のために各種の活動に精を出しましょう。

(鈴木末一)



鳥見小学校
校庭観察会

富雄第三小学校
校庭観察会

昨年に引き続き、放課後子供教室で自然観察会を行いました。参加した子供は1、2年生が中心の34名、スタッフは6名で楽しい時間を過ごしました。

昨年度と同様に雨模様で、何度も空を見上げていたところ、12時頃になって雨は上がり、雲が切れ青空が見えだしました。冷たい風が強く吹く寒い中でしたが、無事に実行できました。やれやれ！

出し物は、秋の実にポイントを置き、葉の匂い、マツの葉と実、カエデの種の分散、スズカケノキの葉と実、ミラーウオークの5つ。昨年とすっかり中身を入れ替えました。

松の葉ではアカマツとクロマツを触った時の痛さ違いを実感しました。また松ぼっくりが湿気で閉じたり開いたりする不思議にびっくり、そして、今年穂ったばかりの小さな実を見もらいました。松葉の相撲は非常に面白かったようです。

葉の匂いは、クス、ミカン、ドクダミを使用しましたが、ミカンの葉の匂いに人気がありました。

スズカケノキの丸い実をすばやく見つけ、大きな葉は気に入ったようです。

カエデの実がくるくる回りながら落下するのを体験してもらおうとしたのですが、強い風で吹き飛ばされ実演に苦労しました。



鏡に映った空、樹の枝や葉を見ながら歩くのは非常に楽しかったようで、「怖い」「落ちそう」と言いながら2回、3回と楽しんでいました。

後半の自然工作は、押し花・押し葉を使ったシオリ作りでした。みんな喜んで作っていました。中には妹の分、お母さんの分などと大量生産している子もいました。

(木村 裕)

11月27日(水) 富雄第三小学校放課後教室の校庭観察会はスタッフ9名が参加して実施しました。この学校の放課後教室は、1～2年と3～6年の2つの教室に分かれて活動をされています。そのため、今回の観察会も、2つのグループに分かれて、開始時刻も場所も内容も別々に実施しました。

1～2年生は、学校から徒歩5分のところにある黒谷公園に出かけ、ドングリ(マテバシイ)、クズ、匂い、カタバミ、ミラーウオークの5ポイントを設定しました。マテバシイを食べて「おいしい！」という子もいれば、「絶対食べたくない。」という子もいて、個性の違いを感じました。

いろいろな形の葉っぱがあるクズでジャンケンをして楽しみ、葉にも色々な匂いがあることを体感し、カタバミで10円玉をピカピカにして、植物が持つ力の不思議を感じてもらいました。



3～6年は、校庭にあるピオトープ付近で、ドングリ(アラカシ)トウカエデ、クロガネモチ、スカイウオークの4ポイントを設定しました。トウカエデのプロペラを飛ばして風散布の様子を目で確認したり、葉っぱに字が書く体験をしました。

ミラーウオークの体験は、どちらのグループの児童にも新鮮で印象深かったようです。



観察会の後は押し花を使った「しおり作り」を楽しみました。個性豊かな「しおり」ができて満足そうでした。

(平岡久美)



**帯解小学校
校庭観察会**

12月4日 本年最後の放課後教室を帯解小で実施しました。7月に続いて2回目です。

今回は『ネイチャーゲームで自然の不思議発見』をテーマに3つのネイチャーゲームをしました。参加児童は17名、そして地域のスタッフの方たち9名に参加していただきました。

「カモフラージュ」は観察眼を集中して、人工物を見つけるというゲームです。子供も大人も夢中になって参加していました。昆虫たちが擬態で身を守る、あるいは狩りをするることになぞ



らえたゲームです。

「目隠しトレイル」ではあらかじめ張ったロープを目隠しした状態

で伝って行き、手に触るものを確かめながら歩くゲームです。普段使っている視覚を使わずに歩くとどのように感じが違うのかじっくり楽しみました。ちょっとした登りや降りがすごい山や谷の様に感じられました。

「サウンドマップ」は静かに耳を澄ませて、聞こえる音を絵にしてみようというゲームです。初めてのことでみんな戸惑いもありましたが、なかなかユニークなものが出来上がりました。

初めての試みで、いろいろ反省事項もありました。来年度は更に工夫をしてより良い放課後教室ができるように頑張っていきたいと思いません。(倉田 晃)

**12月の自然観察会
「山の辺の道を歩く」**

自然教室チーム12月の自然観察会は17日に山の辺の道で行いました。「秋の草木の実はまだ残っているか」をテーマにいろいろな実を探して歩きました。JR三輪駅からJR柳本駅までで、リーダーは小田久美子さんです。参加者は5名と少なく残念でしたが、その代わりいっぱいの実を見つけました。

「赤い実は幾つぐらいあるか」「10個もあればよしとしよう」などといった気持ちで出発



しましたが、赤い実だけでなんと23種類もありびっくりしました。その他赤褐色や黄、黒、青、紫、茶、白等様々な色をした実を合わせて何と80種類もありました。

丸い実の液果が中心でしたが、中には「えっ!」と驚く実や「へえ〜!」と感心する実もあり、それぞれの植物が生き残りをかけて様々な工夫をしている姿を眺め、植物はすごいなと感動したことでした。小田さんの分かりやすい解説もあり、とても楽しい観察会となりました。(倉田 晃)

**1月の自然観察会(お知らせ)
冬の奈良公園を訪ねる**

下記により実施いたします。

参加は自然教室チームメンバーに限りません。全く自由です。自然観察に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

1. 日時：1月21日(火) 10時~14時頃
2. 場所：奈良公園
3. 持参物：昼食、飲み物、観察用具、雨具
4. 集合：近鉄奈良駅 行基菩薩像前 10時
5. 内容：寒い冬の中であってたくましく生きている奈良公園の植物をゆっくり観察します。
6. 担当：池田信明、倉田晃

**2月の自然観察会(お知らせ)
自然工作を楽しもう!**

「小学校で実施できる易しい自然工作」をテーマに実施します。

参加は自然教室チームメンバーに限りません。全く自由です。自然工作に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

1. 日時：2月18日(火) 13時~15時頃
2. 場所：奈良市ボランティアセンターを予定
なお、午前中は自然教室チームの打合せ会です。

歴史研修会

五劫院と東大寺
ミュージアムと座学

12月の研修会、午前の部は24人が参加。真冬並みの気温ながら快晴に恵まれ、防寒対策も万全に奈良市内の史跡散策となった。

最初訪れた五劫院は、鎌倉時代に東大寺を再興した重源上人の開山。宋から招来されたと伝わる秘仏「五劫思惟阿弥陀仏」を特別に拝観させていただく。五劫とは計り知れないほど永い時を表す言葉。落語「寿限無」の主人公の名前の一部となる「五劫の擦り切れ」がこれ。計り知れない永い思惟の修行の結果、頭髮が伸びうず高く螺髪が盛り上がっている特異な尊像である。また、当院の墓地の特別の区画には、江戸期の大仏殿再建した公慶上人とその弟子公盛の墓が寄り添うように並んで、東大寺の変転の歴史を偲ばせる。



東大寺ミュージアムでは、10月から一年をかけて「東大寺の歴史と美術」をテーマに展示中。創建から、平安時代の塔頭の成立と学問の多様化、鎌倉時代初期の戦乱と復興、室町時代末から江戸時代にかけての罹災と復興など一連の歴史と、時代ごとの彫刻・絵画・書跡・工芸等の寺宝の数々を11回の期間に分けたシリーズ。奈良市の老春手帳を提示すれば無料だから、歴史好きにはこれからも楽しめる嬉しい企画である。

午後の部は、23人が参加、中小企業会館の研修室にての座学となる。日頃興味を持ったテーマについて、独断や誤解を恐れず、勉強の成果を披露し、ロマンを語る。岩本次郎先生の適切なご指摘をいただきながら、楽しい時間が過ぎていく。

メインスピーカーの川井さんの話は「日本仏教あれこれ」。日本の仏教の歩み、仏教の教え「滄愛と慈悲」「無と空」、密教と空海などについて、約1時間にわたり熱心に語る。豪放磊落なお人柄の所為か、仏の深遠な教えも幾らか親しみやすく心に響いたようだ。

次いで、「壬申の乱余話」は、9月の研修会に関連する研究発表。森さんから、「大海人皇子を支えた美濃出身の舎人について」、「良質の鉄鉾石を産出した美濃金生山と製鉄鍛冶集団」の話。次いで「鵜野讃良皇女の育った、讃良の馬飼いの里」について、日本書紀の記述と四條畷市の部屋北遺跡から馬飼集団の歴史の検証を古川から。締め括りは岩本先生の「持統天皇の吉野行幸の謎」と時間のたつのも忘れる熱弁が続いた。



最後の「26年度の活動計画案」(下記)の討議は時間切れのため途中で打ち切り。ご意見を事務局まで寄せていただくこととして終了。

- 4月 宇陀周辺の史跡を巡る(紀記シリーズ)
- 5月 五条市の歴史散歩
- 6月 明日香追想Ⅱ一万葉の里を訪ねる。
- 7月 特別企画 高野山歴史散策
- 9月 御所市の歴史を訪ねるⅡ
- 10月 上の太子梅鉢古墳群の天皇陵を訪ねる。
- 11月 万葉集閑話 額田王の生涯
- 12月 奈良市内の史跡と座学
- 1月 環濠の街今井町を歩く
- 2月 纏向遺跡と桜井市埋蔵文化財センター
- 3月 山の辺の道Ⅱ 天理から夜都岐神社

(追記)

反省会では、新たに2人が参加して歴史談議に花を咲かせていました。

(古川祐司)



③9

ドングリは住みかとお食事ところ

木村 裕

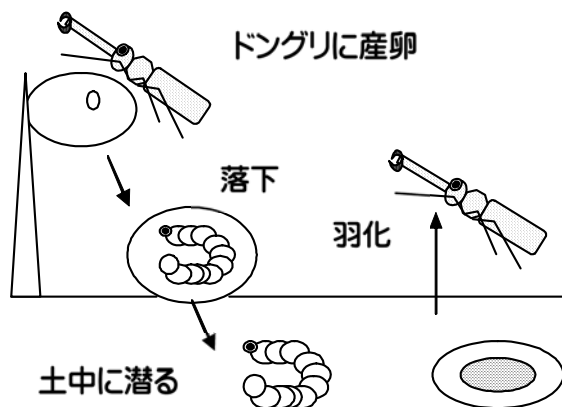
秋にドングリを拾い集めて箱に入れておくと、黄白色で柔らかいウジのような虫が、丸い穴をあけて出てくるのを経験されていることでしょう。

虫のお名前をご存知ですか？

この虫はシギゾウムシと言う甲虫の幼虫です。ドングリ1個がこの幼虫の縄張りで、一国一城の主です。この幼虫には足は一本もありません。よく観察してください。体全体がゴムのように柔らかく、横じわのようにひだがいっぱいあり、そのひだを伸び縮みさせて、あたかも足で歩いているかのように上手に移動します。

頭部には1対の鋭い牙を備えています。この牙でドングリの硬い皮に孔を開け、外へ這い出してきます。虫を手の拳の中に入れても噛まれることはありませんが、頭と牙で力強く押して、なんとか逃れようとしているのが分かります。ドングリから這い出した幼虫は、土の中へ穴を掘って潜ります。5~10cmの深さの所で、体を上手に使うって回りの土を押し固めて、空洞を作りその中で一休みします。栄養価高いドングリで育っているの、もう何も口にする必要はなく、翌年の7月頃まで悠々自適のお昼寝？を過ごします。

7~9月の頃、快適な地下住宅内で蛹になり、やがて成虫となって地上へ這い出します。この頃には美味しそうなドングリの実が、樹にいっぱい稔っています。



成虫は頭の先が細長く口ばしのように突き出っていて、その先端部に丈夫な牙を備えています。

この仲間はみんな頭の先が細長く、前方に突き出ているので「ゾウムシ」と呼ばれ、とくにドングリが好きな成虫の頭は、針のように長く尖っているの、鳥のシギの口ばしを連想して「シギゾウムシ」と呼ばれています。この針のような頭の先の牙を使って、あたかもドリルで穴をあけるように、硬いドングリの皮に孔を穿ち、その孔の中に産卵します。



幼虫の成長速度は非常に速く、ドングリが落下する頃にはすでに十分大きくなって、何時でも外に這い出す準備が、出来上がっています。

この虫は自分の食べ残しや糞を、全てドングリの中に溜め込んでいますので、外見上は正常に見え、仮に外からノックしても返事はなく、在、不在は分かりません。

シギゾウムシの仲間は、食べ物には非常に神経質で、ドングリなら何でも食べるわけではありません。種類ごとに食べる物を決めているので、お互いに競合することはありません。皆さんが最も目にするクヌギのドングリにはクヌギシギゾウムシ、コナラにはコナラシギゾウムシ、クリにはクリシギゾウムシが、それぞれ縄張りをもっています。シイにつく種類もいますが、数が少ないため私たちとは競合しないようです。

クヌギやコナラなど小さなドングリでは、1つの実に対して1匹が定員ですが、大きなクリの実では1匹ではなく、複数の虫が住み着くことができます。



荘園と武家の勃興

歴史文化クラブ
川井秀夫

歴史を追い駆けていると、切り取る時代の様々な疑問と興味が湧いてくる。平安末期、武家の台頭が何故起きたのか、歴史を紐解いてみたい。

私は時代劇が好きで、大河ドラマも良いが、娯楽作品の「必殺仕事人」、中井貴一の「雲霧仁左衛門」、堺雅人の「塚原ト伝」など、特に吉右衛門の「鬼平犯科帳」が大好きで、画面に流れる江戸情緒溢れる町並み、鬼平の人情味のある裁き、個性豊かな脇役など堪らない。

さてさて

935年平安中期。平将門の乱が起こる。歴史に登場した最初の武士である。その遠因とは。

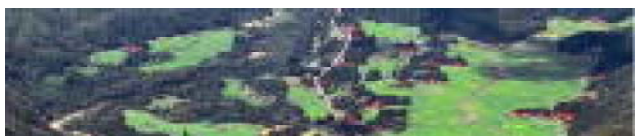
荘園の発展 奈良中期。律令政治の中で、土地制度の改革が進む。公地公民制（土地は天皇のものであり、国民に貸し与えるもの）から723年三世一身法（荒地を開墾し田畑にすれば三世代にわたり私有できる）が発布され、743年墾田永年私財法が施行される。僅か20年の間に四世代になって荒地に戻ることの矛盾、辻褄の合わない法律です。

時の権力者藤原道長が貴族階級の土地の私有化を朝廷に認めさせた事になり、奴婢を使い開墾を進め、土地の私物化を拡大して行きます。

公民たちは税の負担に耐えられずどんどん土地を手放していき、特権階級の荘園（課税の対象にならない）は益々広がり、国有地は1%となり、租税が減り、藤原氏だけが豊かな社会を現出します。

大和の国では殆ど東大寺か興福寺の荘園となり「権門勢家」力のある貴族や寺が私腹を肥やしていったのです。

穢れの思想 日本人にあって中国人にないもの、それは『穢れ』と言う考え方です。日本人と言うのは伝統的に穢れを嫌います。



『穢れ』とは定義が難しい。『汚れ』とは明らかに違う汚染の事です。目に見えるものだから、洗えばなくなります。穢れとは目に見えない汚染、実態としては見えない宗教的なものです。

具体的な例を挙げると、他人の歯ブラシを好んで使う日本人はいないでしょう。それが消毒され洗浄されていても、落ちない汚れがついている、つまり穢れていると感じます。

穢れの最たるものが『死』です。「古事記」や「日本書紀」を読んでも、この「死」の穢れを、あらゆる災いを呼ぶものとして極端に回避します。

平安期最も権勢を誇った藤原道長（三人の娘を皇后に送り、生まれた子を天皇にする）ですら正式な墓はありません。この時代お墓は、高名な帰化人と天皇など身分の高い人だけでした。道長ですら死体を忌み嫌われ、山の中に捨てられたのです。

京都には鳥辺山・化野と言った野原は、全て死体の捨て場だったのです。

当時の行政機関として兵部省・刑部省が、死体の処理などの担当機関でしたが、穢れ意識から有名無実化して行くのです。戦が無く平和な時代でしたから、軍隊もなく警察力も弱く、高貴な人はその職を避ける様になったのです。

長々と二つの事を述べて采ましたが、これらが何故平将門の蜂起に繋がり、武家社会が台頭して行くのか、考えて見たいと思います。

本稿は2月号に連続して執筆させて頂きます。

時代を象徴する藤原道長の歌

この世をば 我が世とぞ思ふ 望月の
欠けたることも なしと思へば

新蕎麦やほのとみどりの香り立つ

古川祐司

新蕎麦に笑顔笑顔の一会かな

古川祐司

そばクラブ。晴れのソバ祭。打つひと、食べるひと、裏方さんの準備も腕まくり。みんな笑顔、笑顔。蕎麦はみどりの色が浮き出る程、上質とか。

つま
夫逝きて一切忙し去年今年

樋口善雄

夫は妻と同義語。先立たれると亭主は大変。作者の心情に明日は我が身と心が痛む。男衆は先に成仏したいもの。こればかりは天命か。

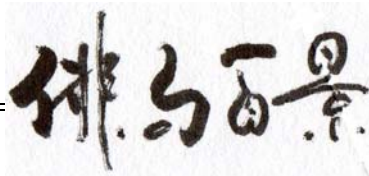
もみぢ葉を重ねて深し正暦寺 八木順一

例会の下見正暦寺。紅葉も散り初めて本番はどうだろうか。自然の成り行きに任せますか。

刈り残す名前も知らぬ草の花

大澤教男

草刈も気を使う。名前も知らぬ山野草に振りまわされる。ごもつとも。花を愛するひとの為に、我慢してチョーダイ。



監修 川井秀夫



風の子のもみぢ纏ふて舞ひ遊ぶ 西谷範子

子どもは風の子。この句は風神の子だった。風さん自分の子を吹き飛ばさない様に。人間界には子を虐待する親が多いので、ご警告。

箒目に科と知りつつ枯葉来る 鈴木末一

とが
白砂の庭だろうか。罪と知りつつ枯葉が舞い落ちる。枯葉にも良心があるのだろう。人間様ならマナー違反。擬人化の一句。

一步踏む一語途切れて虎落笛 鈴木末一

もがりぶえ
風は虎を咆吼する様なうなり声を出す。虎落笛と言って冬の季語。野外では会話が一瞬消えるほど、風の音に流される。震えてくる様な師走ならではの一句。

風が締め掛大根に日の移る 川井秀夫

大根豊作。漬物用に竹竿に干す。この季節の風物詩。四本を股に、北側の二本は正に日陰者。いやいや何れ向きを変えてやるよ。柔らかい冬日が射すひととき。

風呂吹きにぐらりと酔ふてひと夜かな 川井秀夫

風呂吹きは厚切りにして茹で、味噌などをつけて食べる。冬の肴に最適。酔うたのは腹の虫か。



厳かに明けぬる春

谷川 萬太郎

雲の彼方に宿るらん新しき春を探して目を覚ませば
 生まれ変われり天空を緩やかに駆け巡る神馬が走る
 仄かな光の輪襞重にも揺がりて静かに立ち昇る
 自然の恵み湛え真白き心抱きて仰ぎ見る空高くして
 湧き立つ初春の産声も白馬の嘶きに似て清々



「たき火」

竹本 雅昭

翁 : おいおい昼寝してんと、シャラ
 シャラと風のリズムで散る枯葉を
 見てると何もかも忘れるし、道も
 林も一色に染めて美しいやんか。

ドラム管 : アーアー、毎日のことで見あきて
 ます。

翁 : そうやったな。いやね先日木島櫻
 谷の日本画を見たもんだから、こ
 この景と重なってつい見とれてし
 まったよ。

ドラム : え、趣味もったはんねんな。

翁 : そうや、それに今即興の歌を聞か
 せたるわ。“枯葉よ…ララララ…”

ドラム : それはパリにふさわしい
 シャンソンですやん。

翁 : なんや知ってたんか、あんたも相
 当の年齢やな。

ドラム : ちがいます。我々の世界ではまだ
 ハナたれ小僧でっせ。それより旦那、調子悪いと聞いてますけどえ
 らいピンシャンしたはりますな。

翁 : そりゃあいつまでも恰好良くあり
 たいと思ってますよって、早う悪
 いとこなおしてあんたの焚き火で
 元気に働きたいわ。

ドラム : どうぞどうぞ、この大きな金だら
 いハットを取って思いきし燃やし
 まっせ。



Gallery ならやま



▲ 汽車

▼ 椿にコガラ



- 墨彩画 (羽尻 嵩) 「椿にコガラ」
- 陶芸 (小島武雄) 「猫円陣」
「猫蓋物」
- クラフト (大澤教男) 「タイサンボク・スキー」
- クラフト (田中克彦) 「汽車」
「猪」

▼ 猪



タイサンボク・スキー

▼ 猫蓋物



▼ 猫円陣



奈良学クイズ

【問】 次の文は、ある神社の由緒調査書から抜粋したものです。

神社の正式名称について漢字と仮名でお答えください。

{本殿拝殿ヲ始メ附属建物等ノ創建年代往古以来ノ構造及沿革}

創建ハ應神天皇ノ朝ニシテ延喜式神明帳頭注ニ武内宿禰勸請トアリ又傳説ニヨレハ

武内大臣宿禰應神天皇ノ二十年勅ヲ奉シ勸請スト言傳フ

今日ニ至ル一千六百二十余年ヲ経 又大和志ニ今櫻梅天神孝謙天皇讓位後暫為皇居

寶龜三年十二月設齋干此云云トアリ 往古ハ其宮殿社地ノ大ナリシ事想像スルニ難カラザルモ

記録畵画等ノ傳フルモノナシ構造沿革不詳

【応募方法】 メール

FAX

応募締切

: 1月3日

ならやま景観整備

活動予定日

1 月	9 (木)	16 (木)	23 (木)
	30 (木)		
2 月	6 (木)	13 (木)	20 (木)
	27 (木)		

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）
環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕



1月9日 初出式

餅つき・七草粥

- <里山Gr> カシナガ侵入コナラ
伐採
- <農園Gr> 新春初出会、餅つき
豌豆支柱立て
- <景観Gr> B.C.、彩の道草刈り、竹きり
初出 皇帝ダリア撤収、霜囲い
タナゴ池の改修作業



1月16日

- <里山Gr> 椎茸植菌用コナラ玉切り
伐採済カシナガ侵入コナラの
燻蒸処理
薪用玉切り
- <農園Gr> 大根、野菜類収穫、堆肥づくり
水田にチップ散布・水路整備
- <景観Gr> BC 周辺整備、倉庫整備
寒肥、畝寄せ
タナゴ池の改修作業



1月23日

- <里山Gr> 椎茸植菌用コナラ玉切り
伐採済カシナガ侵入コナラの
燻蒸処理
薪用玉切り
- <農園Gr> 各種野菜類収穫、
堆肥づくり
水田にチップ散布
水路整備、
- <景観Gr> たんぼ周辺整備
樹木整理（北側）
ならやま池の水抜きと生物調査



1月30日

- <里山Gr> 椎茸植菌用コナラ玉切り・井桁積み
伐採済カシナガ侵入コナラの
燻蒸処理
薪用玉切り
- <農園Gr> 堆肥づくり、玉葱第2回目追肥
- <景観Gr> ならやま会館前整備
草取り、名札たて（正）
ならやま池の泥除去作業



行事案内

新春初出式 白米赤米黒米三色お餅と七草粥

◆日時:1月9日(木)

午前9時～ 新年挨拶

10時～ 餅つき

正午～ 新春初出式など



竹製の超ミニ猪口で型通りの乾杯をします。
今年は赤米に黒米も加わり、白・赤・黒の三色お餅を、杵と臼で搗きます、きな粉を塗した杵搗きの美味しいお餅をご賞味ください。

また、七草粥も振る舞っていただきます。お節料理で疲れ気味の胃腸に活力を取り戻しましょう。七草粥は邪気を払い万病を除く占いとして食べる伝統料理です。呪術的な意味ばかりでなく、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養素を補うという効能もあります。春の七草、ご存知ですね。



シニア自然大学校進路ガイダンス

1月19日(日)シニア自然大学校20期講座生対象の進路ガイダンスが、鶴見緑地公園内の「花博記念ホール」にて行われます。

3月に卒業を迎える講座生に、シニア自然大学校の研究科をはじめ、地域活動やサークル活動の内容を知っていただき、卒業後の活動の場を見つけてもらおうとするものです。

私たち、「奈良・人と自然の会」も毎年ブースを出して、会の活動を紹介し、入会していただくよう働きかけています。今年も、多くの方に入会していただけるよう、PRと勧誘に努めたいと思います。ガイダンスに参加していただく方を募っています。特に、今年入会していただいた方には、フレッシュな感覚で、この会の活動の意義と楽しさを伝えていただきたいと思います。ご参加いただきますようお願いいたします。

連絡先 青木幸子 平岡久美

新春講演会のご案内

平成26年新春講演会とその前後に会員行事を開催しますので、是非ともご出席ください。

1. 日時 平成26年1月26日(日)
2. 場所 中部公民館 4階第4講座室
3. 会次第

10年表彰式(13:00～13:20)

新春講演会(13:30～15:00)

「里山の収支簿」

講師：近畿大学農学部

奥村博司准教授

研究発表会(15:20～16:30)

「ナラ枯れ調査結果と今後の対応」

森 英雄

「ならやま池の水生昆虫の推移」

(2010年7月～2013年1月)

平 常男

<聴きどころ>

(1) 奥村先生の講演：

里山は外部環境から影響を受け、同時に外部環境に影響を与えている。近畿大学奈良キャンパス内の旧里山に設置した調査地において、そこで得られたデータを用いてその影響に関して解説する。

具体的には、里山における窒素や炭素等の物質の収支を計測・評価することを通じて、里山の持つ基本的な機能とその重要性、里山を維持・管理することの意義に関して考える。

(2) 森英雄さんの研究発表：

ならやま里山林のナラ枯れ調査結果に基づき、奈良県、奈良市等の関係機関との折衝を重ね、今後の対応方法等について熱く語る。

(3) 平常男さんの研究発表：

シニア自然大学水生生物科所属の時から、ならやま池に調査に通った。この3年間の水生昆虫類の推移分析とその結果を発表する。

(事務局:塩本勝也)

平成25年・12月度幹事会報告

- ◆日時：平成25年12月3日(火)
17:00~20:00
- ◆場所：奈良市中部公民館
- ◆出席者：幹事17名 顧問1名
- ◆案件：
 - ①会員動向、会計報告(会員は145名)
 - ②例会、自然教室、ならやま等の活動報告
 - ③ナラ枯れの今後の対応について
 - ④第5地区の整備計画と進捗状況について
 - ⑤H26年新春講演会の準備状況について
 - ⑥H26年度予算作成について
 - ⑦ネイチャーなら1月号の編集について
 - ⑧シニア自然大学の進路ガイダンスについて
 - ⑨12~2月の行事予定の確認、その他
以上

ペン画によせて 境 寛

癩封じの笹酒で有名な大安寺で、奈良時代には、インド僧菩提僊那をはじめ歴史上著名な僧が在籍し、日本仏教史上重要な役割を果たした寺院であった。現存する大安寺の堂宇はいずれも近世末~近代の再建であり、奈良時代にさかのぼる遺品としては、8世紀末頃の制作と思われる木彫仏9体が残るのみである。

ペン画の仏像は、文化財の指定では千手観音となっていますが、寺伝では馬頭観音として伝わり、嘶堂に安置される秘仏です。3月のみ公開されます。一般に馬頭観音様は、頭上に馬頭をいただく忿怒の形相ですが、この尊像にはその馬頭がありません。かわりに胸飾りの瓔珞(装身具)と足首に蛇が巻きつき、腰には獣皮をまとっている極めて珍しい姿です。儀軌以前の古像で、馬頭観音の原初の姿とも考えられます。

(大安寺HPより)



- ◆ 12月号の正解は、次のとおりです。
【問1】(1)不空縹索観音 (2)十一面観音
(3)千手観音 【問2】金光明四天王護国之寺

申し合わせ 事項

ならやま環境整備活動や
野外行事は、前日午後7時
前のNHK TV天気予報で
降水確率が午前60%以上の
場合は中止になります!!



明けましておめでとうございます。

「無」から「有」へ、
呱呱の声を挙げられた時

のエネルギーは、想像を絶するものであったと推察いたします。

先達の皆様方には、「前に道はない」「後に道はできる」であったと思います。歩むべき方向を見誤ることなく、一步一步着実な歩みを続けてきていただいたからこそ、今日の会の姿が創出されてきたと思います。後に続く者にとって、唯々感謝の念で一杯であります。



活動の分野も広がりと深みを増してきております。会員数の増加に伴い、ならやま景観整備活動への参加者数が、毎週60名前後を推移していることも、その一翼を担っていることは否めないと思います。

草創期から充実発展期へと時々刻々進んでまいります。この時期だからこそ「温故知新」、原点に立ち返って、理念を忘れずに共通理解を図りつつ、より一層研鑽に努めることが求められるでしょう。

情報発信と相互理解のためにも、『ネイチャーなら』の内容の充実を目指していかなければなりません。皆様方からご忌憚のないお声をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

『新しい明日に向かって、意義ある今日を創ろう』ではありませんか。

(里山人)

会報誌[ネイチャーなら]・第144号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



2月号の印刷・発送予定について

日時：平成26年1月28日(火)am9:00~

於：奈良市ボランティアセンター



編集チーム・代表 鈴木末一